

「日本3.0」

Vol.26

なぜ今は教育の時代なのか

text by Norihiko Sasaki

文 佐々木 紀彦

最近、周りを見渡すと、未来を見通している人、責任感のある人ほど、教育・育成に時間を割くようになってきています。その代表の一人が、メディアアーティストで研究者の落合陽一さんです。以前、落合陽一さんに「なんで寝間もないほど忙しいのに、学生の教育に力を入れるんですか」と質問したところ、こんな答えが返ってきました。「僕が今もつとも投資をしているのは、明らかに学生です。当初は5年間で50人を育てることを目標にしていました。が、今は4、5年で最大100人まで

育てようと思っています。もし落合マフィアが100人育てば、明らかにとがった変な人間が社会に溢れることになる。その人たちが生む資産価値や市場価値は異常に大きくなるはずですよ」

つまり、落合さんには「教育して仲間を作らないと、自ら構想するグラウンドデザインを実行することはできない。時代の変革は教育から始まる」という強烈な信念があるのです。

落合さん曰く「時代の転換期においては、学生を育てるほうが早いし、効果的。だからこそ僕は、世間の投資家が学生には見向きもしない中、学生を投資価値があるところまで育て上げることに意味を感じている」とのこと。

落合さんの言葉を聞いて、私は「なぜ福澤諭吉が慶應義塾をつくったかが腹から理解できた気がしました。」

「新しい時代が到来しようとしている。これから日本が繁栄するには、新しい時代に通用する『実学』を身に付け、社会の先導者にふさわしい『智徳』と『気品』を備えた人材を育てないといけない。そのためには、江戸時代のモデル

が心身にこびりついたサムライを再教育するよりも、野心ある若者を一から教育したほうが早いし、社会へのインパクトがでかい」

これはあくまで私の想像ですが、きつと福澤諭吉はそう考えたのではないのでしょうか。

以前は、「教育者＝現役引退した人」という印象もありましたが、今後は現役バリバリの人こそ、教育・育成に突き進むはずですよ。ポスト平成の時代は、事業家と教育者の境目がなくなっ、「教育者としての事業家」になれるリーダーが、各界の新たなかたちをつくりていくのでしょうか。

ただ、教育者と言っても、偉そうに自分のノウハウを語る古い手法ではありません。自ら実践者となり、誰よりも多くの失敗と成功を繰り返し、そのエッセンスを言葉と背中中で伝えていく。そんな戦国武将のようなブレインゲームネージャー型の人々が、教育者と時代を創っていくはずですよ。新しいタイプの教育者が続々と生まれてくるのが楽しみです。



Profile

NewsPicks CCO (チーフコンテンツオフィサー)

1979年福岡県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業、スタンフォード大学大学院で修士号取得(国際政治経済専攻)。東洋経済新報社で自動車、IT業界などを担当。2012年、「東洋経済オンライン」編集長に就任。2014年7月からソーシャル経済メディア「NewsPicks」の編集長を務めた。2018年4月より現職。著書に「米国製エリートは本当にすごいのか?」「5年後、メディアは稼げるか」「日本3.0」がある